

慰霊法要

中台を歩く

6月号の広報に掲載された「水戸諸生派藩士を慰霊 中台の脱走塚で」を詳しく紹介します。

1868（明治元）年水戸藩諸生派市川勢は、幕府軍とともに東北・北陸地方を転戦し水戸に戻った後、10月6日（新暦では11月19日）、八日市場、中台村で追討する天狗派と戦いました。諸生派の戦死者25人を埋葬したのが「脱走塚」で、終焉の地とされています。

ます。

記録に見られる最初の法要は、1889（明治22）年5月の「二十一回忌法要」でした。「東海新報」には、「群衆の者へは紅白のもちを授与し、古戦場も非常のにぎわい」と報じられました。

1926（大正15）年には、匠瑳村松山、中台区などの人たちの寄付により塚の中央に石碑が建てられました。水戸藩士・朝比奈家に生まれ、新聞記者として活躍した

知泉氏が、前年4月に兄と弟の3人で初めて戦いの地を訪れ、地元の人から伝えられている戦いの様子などを聞き、碑文を書いたとされます。

知泉氏は「ご当地の皆様への深い感謝の気持ちと、申し訳ないという複雑な心情で、その場を容易に立ち去ることができなかつた」と述べています。

100年祭は、1966（昭和41）年10月に行われました。今回の法要を主催したのは諸生派の子孫らでつくる「水戸藩国事殉難者恩光碑保存会」で、2006（平成18）年に結成されました。2008（平成20）年秋には、脱走塚で「140年慰霊法要」が行われました。これを機に市内でも諸生派関係の調査が再開され、今泉区の旧長泉寺境内墓地に「水戸浪士の墓」が建てられ、今回剣詩舞などが奉納され、ここでも慰霊法要が行われました。

諸生派市川勢のおよそ100人が八日市場にたどり着き、30人ほどが中台周辺で戦死し、10人余りが野手に葬られ、60人近くが各地に散り逃れたとされています。

最近では、旭市新町に「八日市場・松山の戦い」を逃れた水戸藩士の墓があるという知らせを受けました。

2年後には、1868年の戦いから150年目を迎えます。それまでに行き得る限り、調査を進めたいと思います。（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課広報広聴班

TEL 73・00800



諸生派の戦死者へ追悼の辞を述べる恩光碑保存会会長